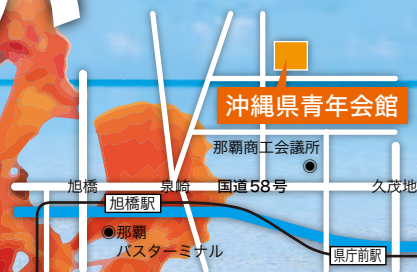


沖縄から模索する 日本の新しい 安全保障



米海兵隊の撤退と日本の平和を両立させる道を示してこそ、本土の世論も変わってくる。それを示せるのは、戦争の現実を体験し、防衛の最前線に位置し、安保の現実を知り尽くした沖縄県民だ。安倍路線に替わる新しい安全保障戦略を模索している「自衛隊を活かす会」の元防衛官僚や安全保障の専門家とともに、自衛隊幹部も交えて、一緒に作り上げていきませんか。

2017

9.30

土

沖縄県青年会館 2階大ホール

(13:15開場)

(モノレール旭橋駅徒歩5分)

13:45~16:45 会費 500円

挨拶



糸数慶子
参議院議員

報告



伊波洋一
参議院議員



渡邊 隆
元陸将
東北方面総監



柳澤協二
元内閣官房
副長官補



伊勢崎賢治
東京外国語大学
教授



加藤 朗
桜美林大学
教授

事前の参加申込みは不要です

「自衛隊を活かす：21世紀の憲法と防衛を考える会」とは？

人数把握のため、メールで参加のご希望を伝えて頂ければ幸いです。メールの件名に「9.30沖縄企画」、本文に①ご氏名と②参加人数をご記入の上、下記アドレスまで送信して下さい。

kenpou.jieitai@gmail.com



2014年6月7日発足。自衛隊を否定するのでもなく、国防軍や集団的自衛権に走るのでもなく、現行憲法の下で生まれた自衛隊の可能性を探り、活かすことを目的とし、議論の場を提供すると共に、提言活動などを行う。ホームページ (<http://kenpou-jieitai.jp>) で提言や過去の記録を紹介。

自衛隊を活かす会 書籍のご案内

ご購入は **amazon** または各出版社のホームページよりご注文ください。



新・日米安保論

集英社新書

2017年5月発売

守るべき日本の国家像とは何か？今まさに必読の一冊！

冷戦終結後四半世紀。以来、国際情勢の変化にもかかわらず日米の安全保障体制は維持されてきた。しかし「今後も守って欲しければさらなる負担を」と訴えるトランプ政権の登場で、日本はアメリカとの安全保障体制の在り方そのものを問われている。果たして日米地位協定に象徴される従属的なアメリカとの同盟関係を今後も重視する必要はあるのか？尖閣問題、対テロ戦争、北朝鮮情勢など、激変する情勢下、日本の安全保障を、歴代内閣のご意見番であった元防衛官僚、武装解除のエキスパート、安全保障の専門家が徹底的に語り合う。避けては通れない国防の根本的な問題がここにある。



南スーダン、南シナ海、北朝鮮

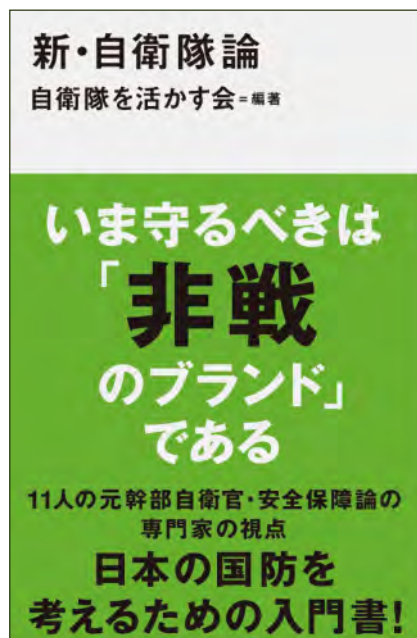
新安保法制発動の焦点

かもがわ出版

2016年11月発売

新安保法制は果たして日本と世界の平和に寄与するのか？

2016年11月、南スーダンの自衛隊に「駆けつけ警護」任務が付与された。南シナ海の緊張は高まり、北朝鮮のミサイル開発も進む。新安保法制はいよいよ発動されるのか。南スーダンをはじめ、自衛隊による警戒監視が想定されている南シナ海、核・ミサイル開発が進む北朝鮮という、新安保法制が発動される焦点となる事例を取り上げ、陸将や海将を経験した元自衛官や安全保障に携わってきた防衛省幹部、国際政治研究者、世界の各地で紛争処理を手がけてきた実務家、ジャーナリストや国際ボランティアなど、多方面の専門家がそれぞれの立場から問題点を究明する。



新・自衛隊論

講談社現代新書

2015年6月発売

守るべきは「非戦のブランド」である

日本を取り巻く安全保障環境は変貌しており、従来型の思考では対処できない事態が生まれている。そんな中、安倍首相の進む方向にただ反対だけを唱えていても、現実味はない。本書は、自衛隊を否定するのではなく、かといって集団的自衛権や国防軍に走るのでもなく、あくまでも現行憲法の下で誕生した自衛隊の可能性を探る。はたして、21世紀とはどういう時代なのか。日本防衛のあり方、国際秩序に対する日本の貢献、そして、日米同盟における日本の立ち位置とは？11人の元幹部自衛官・安全保障論の専門家による、日本の国防を考えるための入門書！